ご参考資料

2020年6月18日

ふいんてっく通信

~ Vol.19 ~

安い! 早い! 簡単! デジタル送金

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

nikko am fund academy

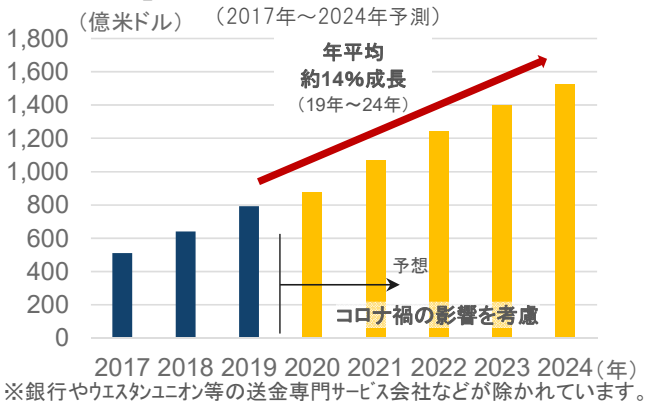
近年グローバル化の進展により、出稼ぎ労働者や移民の母国への送金が増え、eコマース(電子商取引）の増加で送金需要も高まっています。そこで今回は、利便性の高いデジタル送金に注目してみます。

■ 国際送金のデジタル化が加速

国際送金の2019年の市場規模は、過去最高額（推計、世界銀行の統計）となりました。中でも、フィンテック企業が手掛ける送金手数料を抑えたデジタル送金は高い成長を続けているようです。

統計調査データを提供するStatistaによると、2017年から2019年のデジタル送金取引額の年平均成長率は約25%となり、同期間の国際送金の成長率約5%を上回っています。向こう5年の年平均成長率も約14%になるとの見通しを示しています。

【デジタル送金の取引額の推移】



※銀行やｳｴｽﾀﾝﾕﾆｵﾝ等の送金専門ｻｰﾋﾞｽ会社などが除かれています。
Statista「Personal Finance report 2020」の情報をもとに当社作成
※上記は過去および予想であり、将来を約束するものではありません。

デジタル送金の利用者属性をみると、低・中間所得層が約74%、18～44歳が約74%を占めており（2019年）、送金手数料を抑えて母国に“仕送り”している様子がうかがえます。

G20財務相・中央銀行総裁会議でも、ESGの観点から貧困層に配慮した金融包摂（すべての人が金融サービスへアクセスできること）の改善に努めるとしており、デジタル送金への期待はこれまで以上に高まっていくとみられます。

■ 安い 早い 簡単 を追求した海外送金ビジネス登場

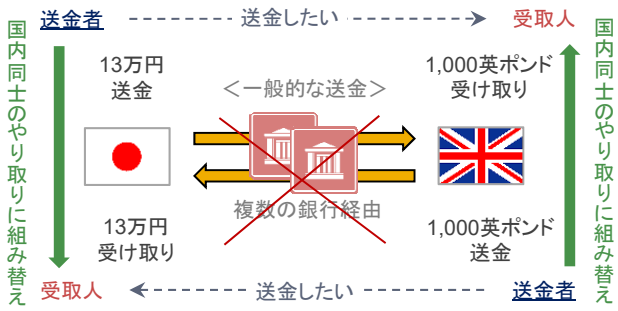
海外送金する際に、送金手数料が高い、送金・受け取りに時間がかかる、手続きが面倒、といった悩みを解決したフィンテック企業が注目されています。ここでは、グローバルに海外送金サービスを提供する英トランスファーワイズの取り組みをみてみます。

一般的な海外送金は、複数の銀行を経由して送金されるため、その分の手数料がかかり、着金まで数日かかります。さらに、実勢レートに手数料を上乗せしたレートを使って手続きすることになります。

一方、同社は国内の送金と着金をマッチングさせるような仕組みで、実際に資金は国境を越えず、実勢レートで短時間で送金するサービスを提供しています。しかも、簡単にオンラインで手続きが出来るのです。

まさに、フィンテック企業だからこそなせる業ではないでしょうか。今後、利用者の拡大が期待されます。

【トランスファーワイズの海外送金イメージ】



※上図では、手数料などを考慮していません。1英ポンド=130円
トランスファーワイズ・ジャパンのプレスリリースなどをもとに当社作成

本文中の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。
また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。